

転倒・転落防止用具作製の取り組み

永井 修 小島 利佳 筑波メディカルセンター病院

(はじめに)

転倒転落事故は、医療機関においてインシデント・アクシデントの報告件数に含まれる割合が高く、当院においても多くの報告が提出されており、医療安全対策委員会で問題になっていた。

これらの転倒転落事故を少なくできないかと考え、転倒転落防止用具の作成に取り組んできた。

今回作製した防止用具のポイントと、使用した成果について報告する。

(作製)

1. 転倒転落防止用具に求められる条件

操作が簡単であること。

誤動作の少ないこと。

応用がしやすいこと。

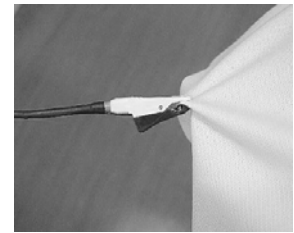
安価であること。 の 4 点を作製上のポイントとした。

2. 作製した転倒転落事故防止用具 (院内名:ピンチ君)

クリップの部分をはさみ、外れるとナースコールが鳴る。

感度は、クリップまでの紐の長さで調節する。

スイッチは何も付けていない。



衣類から離れるところ

(使用)

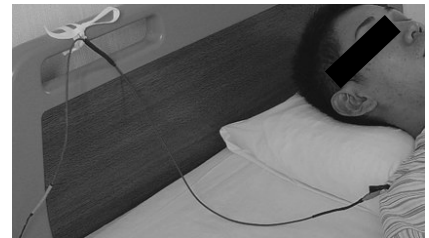
医療安全対策委員会の下部組織である S C T F と協力

・患者のアセスメントシート --- 適切な患者の選択

・使用マニュアルの作製 --- 適切な使用

に取り組み、病棟で実施している。

また、使用法について病棟よりアイデアが出されるなど、予想以上の反響があった。



病衣にセンサーをつけた所

平成 17 年 7 月現在、病床数 409 床に対し、36 台の防止用具が稼働している。

(評価方法)

今回作製した転倒転落防止用具の、使用開始前と後の 12 ヶ月を、インシデント・アクシデント報告用紙にて提出された、転倒転落事故件数。

事故レベルとして、[転倒転落事故により検査や観察強化が必要]以上の症度を、対象事故として比較した。

(評価結論)

使用開始前 12 ヶ月 総報告件数 402 件 対象事故件数 45 件 (11.2%)

使用開始後 12 ヶ月 総報告件数 420 件 対象事故件数 15 件 (3.6%)

(まとめ)

全体に含まれる報告件数には大きな差はなかったが、報告用紙にて提出された対象事故件数は、予想以上に減少しており、転倒転落事故を削減するための防止用具として、十分な成果を上げることが出来た。

しかし、インシデントを含む軽症事例の事故件数については、減少させることができず、転倒転落事故の制御が如何に難しいか実感した。